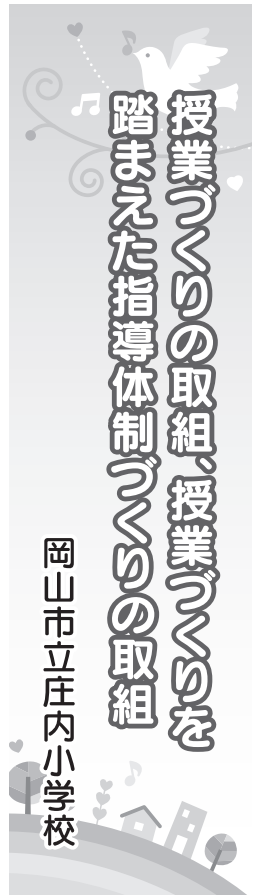


広げよう！優良実践の輪！

～平成28年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 1



1 学校の現状と課題

本校は、環境に恵まれ、地域の方との繋がりも深く、児童数616人の中規模校です。穏やかで素直な児童が多く、やるべきことはきちんとできますが、共に考え、高め合って創意工夫することはやや苦手です。

教職員は、若手とベテランの二極化が進み、若手育成が急務であり、「わかった」「楽しい」と感じる授業づくり、指導体制づくりが喫緊の課題でした。

2 取組の概要

(1) 授業づくり

①授業実践で授業力を
「授業づくり」を学校経営3本柱の一つに位置付け、岡山市が示している「授業これだけは」の徹底を図り、一人一授業

公開を行っています。そのうち

3回は、外部講師を招聘しての全員参加の研究授業とし、学年部で授業研究する時間を確保するようにしました。



公開授業

(2) ベテランから若手へ

初任者研修で先輩教諭が参観授業を行うに際し、学習指導案

(本時案)を作成して全員に配付し、若手職員が、指導案や指導内容について学ぶ機会として、自由に参観できるようにしています。特に教科等主任は担当教科の授業公開とし、全教科全領域の参観ができるようにしました。

(2) 指導体制づくり

①指導教諭の活躍

校務分掌上に、学力向上担当として指導教諭を位置付け、経験の浅い職員が相談や指導を受けやすいようにしました。また、学力向上部会を組織し朝学習や自主学習、家庭学習の内容充実



みんなで研修

を図りました。

②管理職から

管理職は積極的に授業づくりに関わり、一人一授業公開後、校長がアドバイスシートを渡し、フィードバックを行っています。

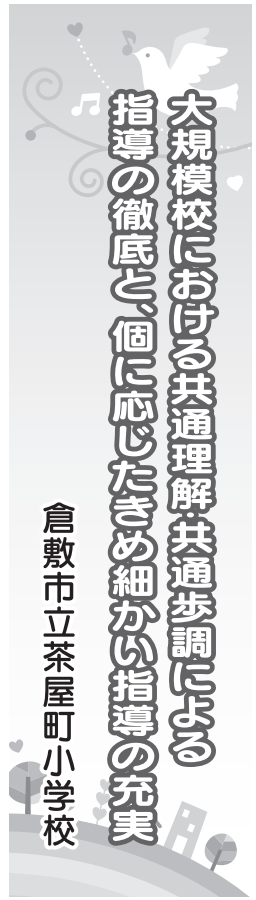
3 成果

積極的に学ぼうとする若手とそれを支えるベテランのサポートにより、校内に指導改善の機運が醸成されました。また、児童に自己肯定感の高まりが見られ、問題行動の減少、全国学力学習状況調査で顕著な改善が見られました。

4 取組の充実に向けて

今後は、「主体的に学習に取り組む、互いに高め合う授業づくりを目指しての指導体制の強化」「授業改善のための指導教諭・各主任等の積極的な授業公開による研修の充実」「学習に取り組む基盤づくりの強化」について具体的な視点をもちさらなる充実を図っていきます。

(校長 則武 尚子)



1 はじめに

本校は、児童数約1300名、44学級の大規模校です。初任者も毎年3〜4名配置されます。教育活動の成果を上げるには、全教職員が一体感をもって指導の徹底を図ることが何より重要と考えています。

2 本校の課題

10年程前には、問題行動が増加し、中学校に行っても荒れが続く状況がありました。その後地道な取組により、問題行動が減り、学力も次第に向上してきました。しかし、次のような課題があります。

- 学力の更なる向上
- 自己肯定感の向上
- 長期欠席者等の縮減

3 基本的な方針と重点的取組

このような課題に対し、本校

では、「共通理解・共通歩調」

「教職員の指導力向上」「自信とやる気を育てる」の3点を基本とし、次のことを重点的に取り組んでいます。

- ①学力向上
 - ・各学級の学習規律を揃えるために本校独自の学習規律スタンダードを作成し徹底を図っています。
 - ・算数科の授業研究に4年間取り組み、児童が自分の考えを自信をもって発表できるように授業改善を進めています。
 - ・九九や筆算を全員がマスターし自信を持てるようにするため、担任外の教員やボランティアによる九九マスター・筆算マスター大作戦を行い、合格者には校長から認定証を手渡しています。

②落ち着いた環境づくり

児童会が発案したハイタッチ

あいさつ運動に全校で取り組み、保護者や地域ボランティアの参加も得て盛り上がっています。



ハイタッチあいさつ運動

③地域等との連携

地域住民等による学校支援センターを立ち上げ、ミニン実習安全マップ作り、九九の聞き取りなどにご協力いただいています。

④人材育成

一昨年度から若手教員が中心になり、自主的な勉強会を毎月1回6時ごろから約2時間程度行っています。これまで31回、延べ約500名が参加しています。毎月テーマを決め、レポートを持ち寄るなど、対話的・実践的な研修を行っており、専門

性・同僚性の向上、仕事のやりがい・生きがいにつながるともに、不祥事を生まない土壌・職場づくりにも寄与していると考えています。

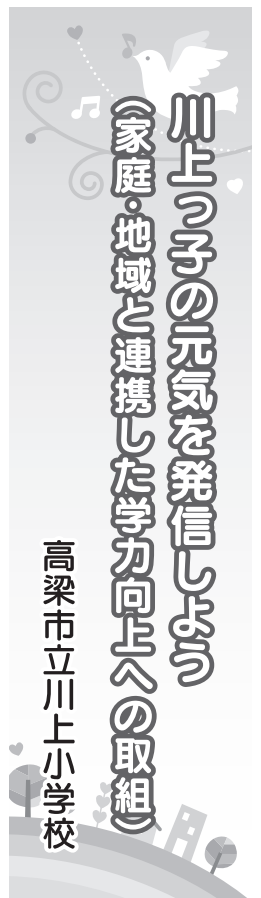
4 成果と課題

学力調査の結果は全国平均を上回り、落ち着いた学校生活が維持できています。しかし、自己肯定感の向上や長期欠席者数には依然として課題があります。今後とも「全員で」「ねばり強く」「確実に」実践を重ね、仲間を大切に、活気のある職場をつくっていききたいと思います。

(校長 忠田 正)



教員による自主的な勉強会



1 はじめに
 本校の課題として、学力の定着状況に個人差があったり、特別な支援を必要とする児童が多く見られたりすることがありました。そこで、地域ボランティアの方による学習支援活動、家庭との連携を中心に学力向上への取組を行いました。

は8名の方に、延べ322時間は8名の方に、延べ322時間支援をしていただきました。担任と情報交換しながら、日々の算数指導に成果が上がっていると感じています。

②放課後学習サポート
 毎月1回程度、水曜日の放課後、全4〜6年生を対象に地域・保護者の方々をお願いして

2 取組の概要
 (1) 地域ボランティアの方による学習支援活動
 ①全学年への算数学習支援
 月末に翌月の各学年の算数授業の予定表をボランティアの方に送り、支援できる日に印をつけて返却していただいています。そして、算数の授業に入ってきたら、担任のサポートをおこなってまいります。昨年度



「放課後学習」をしています。百マス計算と四則混合問題、それに加えて、漢字とそれを使った意味調べや単文づくりをタイムテーブルに沿って実施しています。全員の児童が、この学習を「自分の役に立っている」と捉え、3年目を迎えた今年度も前向きに取り組んでいます。

毎年学年末におこなっている教研式CRTテストの結果が徐々に伸びています。

8月28日(日) 川上地域 読書の日

茶を飲んだ (〇をつけましょう)
 茶を飲んでもらった
本の腰をした
おうちのひとといっしょに飲んだ

自分の感想 (絵がきたい人はこの紙の裏にかきましょ)

「ほらあなさま」
 わたしはほらあなになんかおせんをかくてだ
 さいいと言とおせんが出ていたの
 ばりしした。よくばりのは自分だけか
 (ほらあなにしていたので悪いと思いま
 した。

おうちのひとの感想

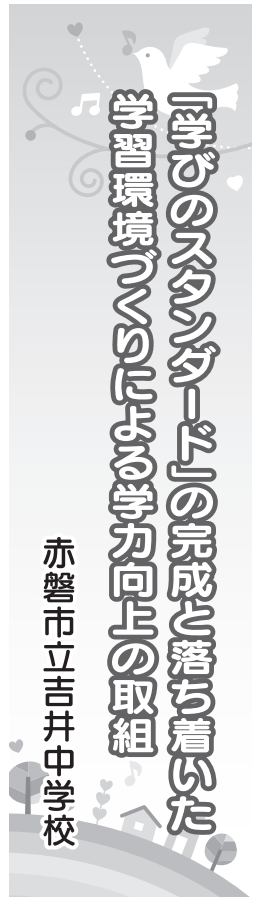
昔話は 現代と言葉や表現が だいぶ 違い、
 方言で書かれているので 自分では少し 読みづらいかな。
 大人が 読み聞かせと 言葉にリズムがあるから
 楽しいよ。3年生なので 大人だけが 読むのではなく
 いっしょに 読めようと思っています。

川上小とじよかん

(2) 家庭との連携
 ①うちどく(家庭読書)の日
 地域・家庭と連携して、毎月第三日曜日を「川上地域読書の日」と制定し、各家庭で読書をするのが浸透しています。この日川上町内に小学校の図書委員による録音放送「テレビを消して、本を手にとり、おうちの人と一緒に読書をしませう」が流れ、親子で読書をして、「うちどくファイル」に記録を

3 おわりに
 頻繁に地域の方々が来校してくださることから、自分たちに愛情を注いでくださっていることを実感したり、実際に学力が向上したりしていることに充実感や達成感を感じています。

(校長 加藤 浩子)



1 はじめに

本校の生徒は純朴で明るく、学校行事や生徒会活動、部活動に一生懸命で、授業にも落ち着いて取り組んでいます。しかし、長時間メディアを利用して、家庭学習が不足している生徒が多く、学習意欲や学力状況に課題を抱えています。そこで、学力向上に向けて全職員で「学びのスタンダード」の完成を目指しました。

2 取組の概要

(1) 授業改善

すべての職員が全校生徒の能力や特徴などを把握しているという小規模校の強みを活かし、全職員による指導案検討や模擬授業、公開授業・研究協議等を行ってきました。また、具体的

な目標・まとめ・振り返りの一貫性により授業の焦点化とアク

ティブ・ラーニングの視点に立った授業展開の研究を実践しました。その結果、基礎基本の徹底がなされ、分かる授業へ一歩前進しました。

(2) 朝読書「読み聞かせを含む」

各教室で始業時の10分間、評価等をせずに、読むことを優先して行っています。さらに図書の実を図ることで、読書に親しむ生徒が年々増えていきます。

(3) つちのこタイム

帰りの会終了後の10分間、年間計画をもとに次の4つの内容に取り組むものです。

①プリント学習（基礎基本の復習）

②滴一滴（新聞のコラム）の筆写

③全校一斉テスト（五教科の基本）

年間11回・連続満点者の表彰



全校一斉テストの様子

④テスト勉強（40分程度）

定期考査前に、一週間程度実施

「やればできる」という達成感や自己肯定感を高め、学習意欲や基礎学力の向上を図っていきます。

(4) 家庭学習

①自主学習ノート

教科や内容は自由で一日一ページ

全職員で点検・コメント

②宿題確認コーナーの設置

生徒と教科・学級担任三者共有

(5) 生徒会活動の取組

生活習慣調査や勉強方法、本

の紹介（新刊やおすすすめ本）など



宿題確認コーナー（生徒下足箱前に掲示 いつでも確認可能）

3 おわりに

学力向上（基礎基本の定着）に向けて全職員で真摯に取り組んだ結果、全国や県の学力学習状況調査の比較分析から、大きく改善されていました。今後さらに、一つ一つの取組の検証・改善に努めたいと思っています。課題としては、改善は多少見られたものの、家庭学習時間が依然として少なく、習慣化までに至っていないことです。家庭学習の習慣化を目指して、授業と授業を繋ぎ、意欲を高めるための更なる策を講じていきたいと考えています。

（校長 木村雅之）

学び合う育ち合う寄島っ子の育成 ～寄島学園としての取組～

浅口市立寄島中学校区

1 はじめに

寄島中学校区には、保育園・こども園・小学校・中学校が1校ずつあり、寄島学園として連携しながら将来を担う寄島っ子の育成を図っています。

2 取組の概要

① 児童・生徒の交流

年2回合同避難訓練（こ・小・中合同）を実施しています。また、中学校生徒による小学校での読み聞かせ、学習支援、挨拶運動等を行ったり、中学校の行事等に小学生を招待したりしています。

② 教職員の交流

年3回寄島学園合同研究会を開催し、授業参観と研究協議を行って頂きます。また、定期的に中学校教員が小学校で授業を行ったり、小学校教員が中学校生

徒の授業の支援を行ったりしています。さらに、キャリア教育と道徳教育を合同の研究チームとして公開授業や研修会を行っています。



中学生の小学校での挨拶運動

③ 主に小学校での取組

小学校では、落ち着いた生活・学習環境の確保を大切にしています。具体的には、挨拶・返

事、靴そろえ、学習の構えなどのきまりを分かりやすく掲示し、全教職員が歩調を合わせて指導を行っています。また、「寄島小学習スタンダード」を作成し、基本を大切に授業実践を行っています。

④ 主に中学校での取組

中学校では、一人ひとりの生徒を大切に、そして人間関係を育て、学力を向上させるプログラムを実施しています。具体的には、協同学習、SEL※1、ピアサポート、品格教育、PBI S※2等です。また、生徒会による人権集会やスマホ集会などの自主的な活動を推進しています。

⑤ 家庭・地域との連携

ホームページや学校だより等で積極的な情報発信や各種ポランテニアへの参

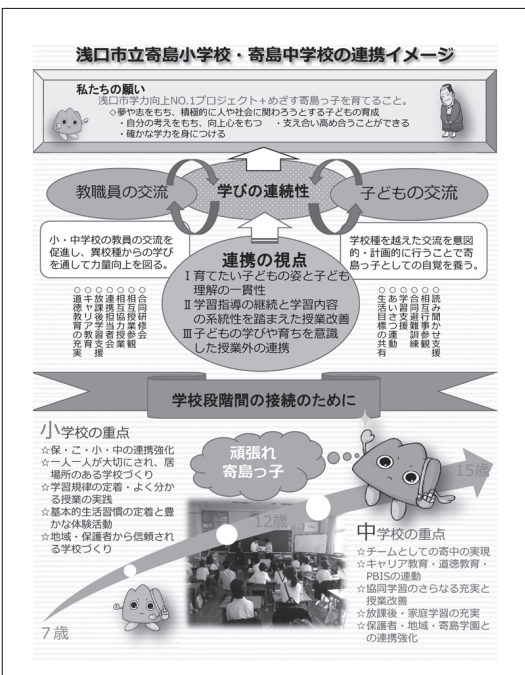
加の呼びかけをしています。家庭学習やメディアコントロールの取組については、小・中で時期をそろえて生活点検を行い、家庭への啓発を呼びかけています。

3 おわりに

浅口市の学力向上NO.1プロジェクトにおける寄島中学校区の目標の達成を目指し、今後も小・中連携をさらに進めていきたいと考えています。

（寄島小学校長 襟立 良夫）
（寄島中学校長 三上 禎子）

※1：社会性と情動の学習プログラム
※2：積極的な行動介入と支援



小中連携イメージ

※このコーナーの執筆者の所属は平成28年度のものです。